

第2期苫小牧市役所エコオフィスプランの運用実績（平成30年度）

苫小牧市役所エコオフィスプラン（計画期間：平成27年度～31年度）に基づき、市役所全施設の事務・事業活動に伴う温室効果ガス排出量を公表します。また、参考値として、エネルギー使用量についても公表します。温室効果ガス排出量は58,944 t-CO₂となり、基準年度に比べ11.1%減少しました。

（1）温室効果ガス排出量について

排出区分別温室効果ガス排出量

排出区分	温室効果ガス排出量	30年度		令和1年度（目標値）	
	25年度（基準年度）	t-CO ₂	増減	t-CO ₂	増減
エネルギー起源 CO ₂	42,337	40,997	-3.2%	40,220	-5.0%
非エネルギー起源 CO ₂ *1	23,935	17,947	-25.0%	22,931	-4.2%
合計	66,272	58,944	-11.1%	63,151	-5.0%*2

※1 非エネルギー起源 CO₂は廃棄物燃焼による排出量です。

※2 目標値について、省エネ法でエネルギー消費原単位を毎年1%以上削減することが求められていることから、小数点以下を四捨五入し5%としています。

※ 電気のCO₂排出原単位は25年度（基準年度）の値を使用しています。なお、電気のCO₂排出原単位は1キロワット時の電気を発電したときのCO₂排出量であり、北海道電力㈱の値を使用しています。

<エネルギー起源 CO₂>

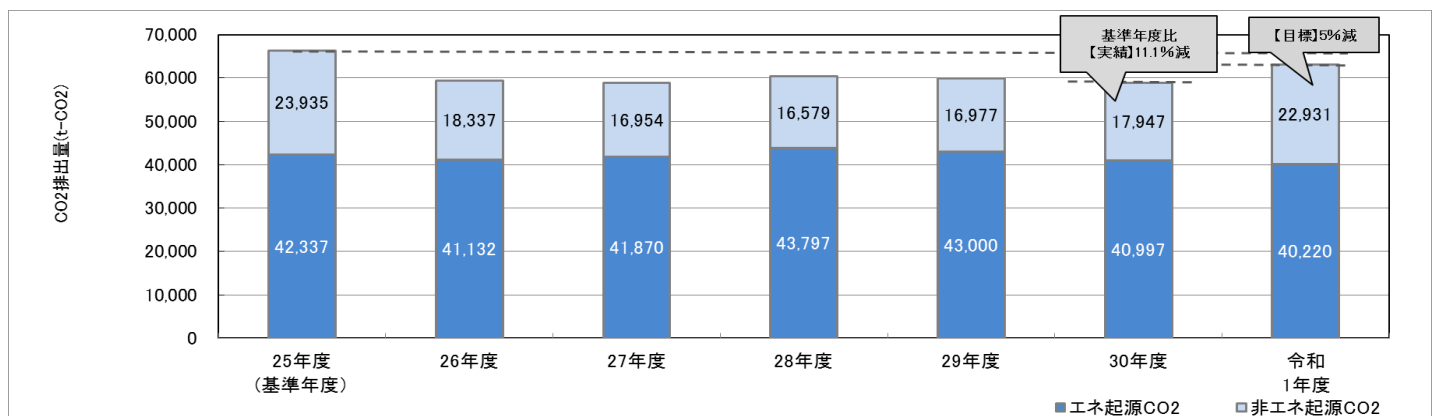
エネルギー起源 CO₂の排出量は基準年度と比べて3.2%減少しました。

主な要因として、気候による影響のほか、設備の更新・運用方法の改善、LED照明の導入や不要照明の消灯など職員の節電・省エネの取組等が挙げられます。

<非エネルギー起源 CO₂>

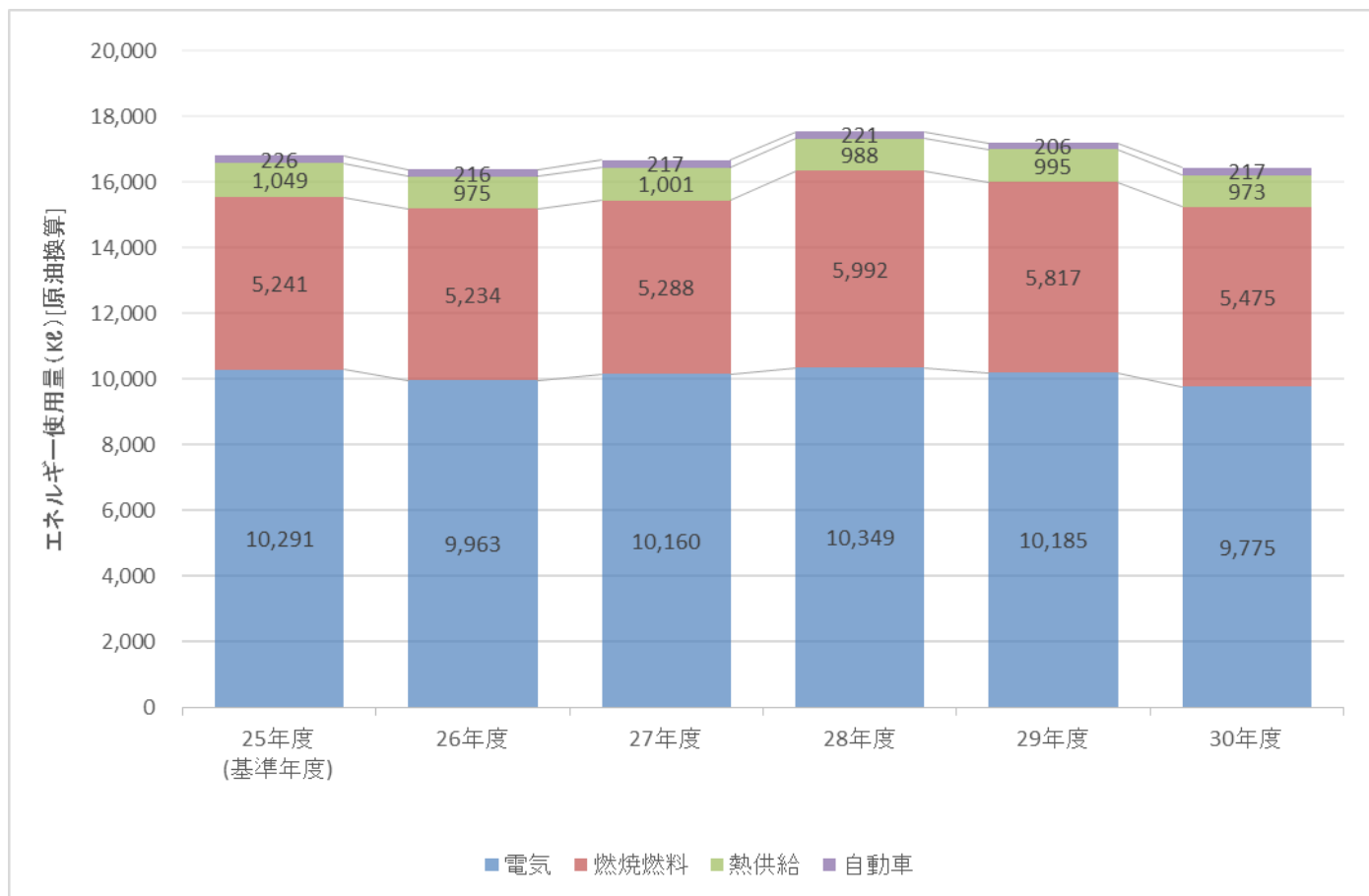
非エネルギー起源 CO₂の排出量は、市が収集した焼却ごみに含まれるプラスチックの燃焼から発生したもので、基準年度と比べて25.0%減少しました。

主な要因として、平成25年7月から開始した家庭ごみ有料化により、分別の意識が高まりプラスチックごみの焼却量が減少したことが挙げられます。



目標値

(2) エネルギー使用量について (参考値)



<自動車使用>

自動車使用によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて4.0%減少しました。

<熱供給>

熱供給によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて7.2%減少しました。

主な要因として、各施設における室内温度の適正化や暖房の効率的な使用等が減少に繋がりました。

<燃料燃焼>

燃料燃焼によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて4.5%増加しました。

基準年度と比較すると増加していますが、施設の設備更新や省エネの取組み等により、前年、前々年度と比べると減少しております。

<電気使用>

電気使用によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて5.0%減少しました。

主な要因として、LED化の促進や節電等の取組みにより減少に繋がりました。